

平成30年5月16日

三鷹市議会議長様

議員行政視察に係る結果報告書

会派名 三鷹市議会公明党 代表者名 紺谷 稔

1 観察年月日	平成30年4月12日（木）～平成30年4月13日（金） (1泊2日)			
2 観察者氏名	寺井 均	赤松 大一	紺谷 稔	大倉 あき子 計 4人
3 観察先及び 観察項目	(1) 福岡 都・道・府・県 大牟田 市・町・村 ア 認知症ケアコミュニティ推進事業 イ 大牟田 ESD 推進事業 (2) 福岡 都・道・府・県 市・町・村 福岡県若者しごとサポートセンター			
4 観察結果等	<p>◎認知症ケアコミュニティ推進事業</p> <p>大牟田市では、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりが進められている。1960年に208,000人いた人口も2018年には、115,800人まで減少し、高齢化率も35.7%である。</p> <p>大牟田市として、高齢者福祉施策を進めることは喫緊の課題であり、本人の意思と能力を發揮しうるような人生を最後まで支え続ける介護環境の確立を目的として、2000年3月に大牟田市介護サービス事業者協議会を設立した。協議会は市内すべての介護事業者が加入し、事務局は行政が担っている。2000年からスタートした介護保険制度のもと、個々の事業者のサービスの質を上げるために、事業者だけに委ねるのではなく、行政も支援することが必要であるという考え方から協議会が設立された。</p> <p>そして、認知症の人とともに暮らす町づくりの原点として、平成13年11月に大牟田市認知症ケア研究会が、ノーマリゼーションの視点・人権の尊重・人生の継続性、QOL（生活の質）の向上をキーワードに発足し、地域で支える仕組みづくり、サービ</p>			



スの向上を図り、地域認知症ケアコミュニティ推進事業へ展開されている。

取り組みとしては、認知症介護意識実態調査を3年に一度行い、認知症SOSネットワーク模擬訓練や認知症介護家族「つどい・語らう会」、認知症カフェ、子どもたちと学ぶ認知症「絵本教室」等の事業が行われている。

特に、介護予防拠点・地域交流施設45ヶ所や地域の小規模多機能サービス拠点づくり（25ヶ所、介護予防拠点や地域交流施設の義務付け）、ほっと安心ネットワークと模擬訓練はすばらしく、是非、三鷹市でも展開したい事業である。

◎大牟田ESD推進事業

大牟田市では、ESD（持続可能な開発の為の教育）として、平成24年1月に全ての市立小・中・特別支援学校がユネスコスクールに加盟し、平和や国際的な連携を実現し、ユネスコ憲章に示された理想実現の学校としての推進拠点となった。

各学校において、自分たちで地域の課題を見つけ、調べ、考えて実践する学びを推進している。

学校としての課題事例は、福祉、三池炭鉱関連施設（世界遺産）、食育、海洋教育など学校ごとにテーマを決め、子ども達が主体者として、大牟田市や日本、世界が、いつまでも平和で幸福が続く為に自分には、何ができるかを考えながら学習する環境整備を推進している。

その上で、市としては、ユネスコスクール全国大会の開催、子どもサミット、子ども大牟田検定、諸団体との連携、ユネスコスクール支援センターの設置等の後押しを推進している。

また、「ユネスコスクールの日」制定、「ユネスコスクール・ESDのまち おおむた」都市宣言を推進している。

実際の学校では、身近な地域の人への職業インタビュー、地域の花づくりや、伝統芸能の継承などの取組みをしている。

さらに市が推進する認知症対策の取組みに対しても中学生がお年寄りと触れ合う交流機会を設けることで、地域の一員としての立場を自覚するなど、大きな成果が見られると聞く。

宣言にもあるとおり、人と人のつながりを大切にし、学校から地域、世界へとつながりの輪を広げ、希望ある未来を創るために、学び続け、自分にできる行動へと誘導していく取組みであった。三鷹市の進めるコミュニティスクールとは視点や取り組みが違っているものの、地域との関わりや学校への参加という点、持続可能な環境整備という点において、主体性を伸ばしつつ連携していく素晴らしい取り組みであると感じた

◎福岡県若者しごとサポートセンター

福岡県若者しごとサポートセンターは、学校を卒業後や中退

後、または離職後に職に就けない状態にある若者（ニート）などへ就職に向けた支援のために設立されたもので、29歳までの若者を対象に、きめ細かな個別就職相談から、セミナーや会社説明会など多彩なサービスメニューがあり、将来に向けた進路選択や、その後の就職活動・職場定着までをしっかりと支援しています。センターでは無料で就職のために利用できる、1個別就職相談、2適正診断・自己分析、3就職セミナー・職種別セミナー、4職業紹介（ハローワーク閉庁時）、5応募書類作成のためのパソコンやプリンター利用、6インターネットによる企業・求人の検索、7書籍の閲覧・貸し出しなどが、年末年始以外は開所しているため求職者はいつでも利用できます。仕事を紹介してほしい、仕事の方向性が分からない、スキルを身に付けたい、今の仕事に悩んでいるなど若者の職に対する様々な悩みに一緒に向き合う体制をつくり、取り組まれています。本市における若者の就職へのサポートの取り組みを進めるために参考にし、若者支援を進めていきます。